



## 3.ワークショップ Geniee Speedup Challenge

## タイムテーブル

---

休憩を含め5時間の長丁場です。

(といっても時間は思ったより少ないので

得意領域など**できるところから**取り組みましょう！！！)

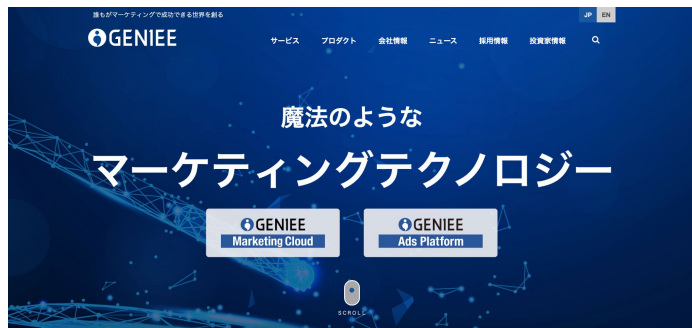
00:00:00 ~ 00:30:00	問題説明 + 環境確認
00:30:00 ~ 02:30:00	実装パート1
02:30:00 ~ 02:40:00	休憩 + 一次評価 + 参加者同士で相談可
02:40:00 ~ 05:10:00	実装パート2 (+ ヒント公開)
05:10:00 ~ 05:25:00	コード提出
05:25:00 ~ 05:40:00	解説 + 簡単な作業

# 広告配信の概要

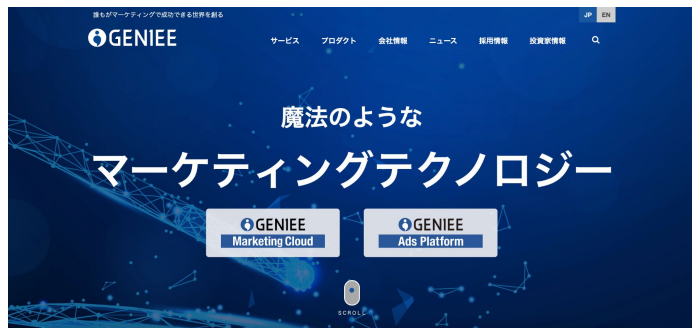
# 広告配信の概要

---

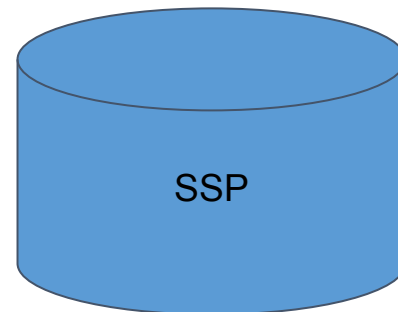
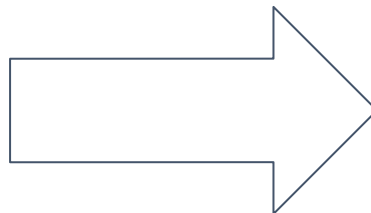
## 1. ユーザがWebページにアクセス



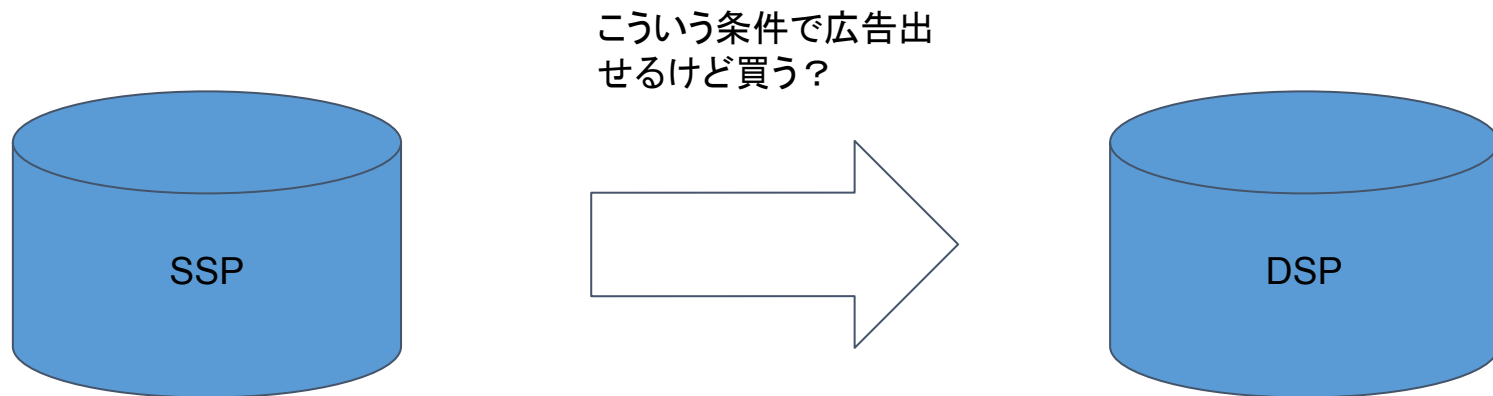
## 2. サイトに貼られている広告タグがSSPにリクエストを送信



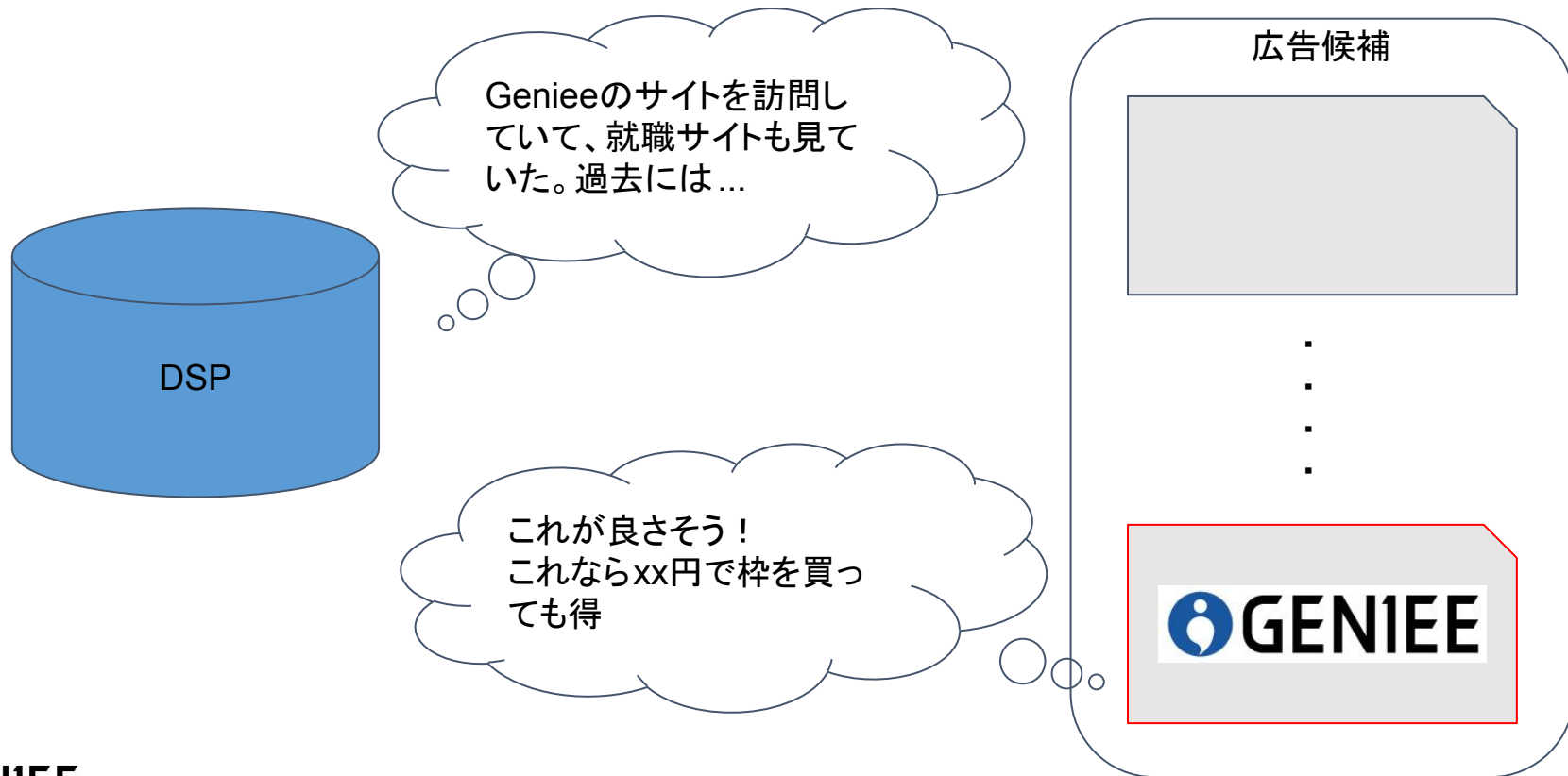
サイト見られたよ



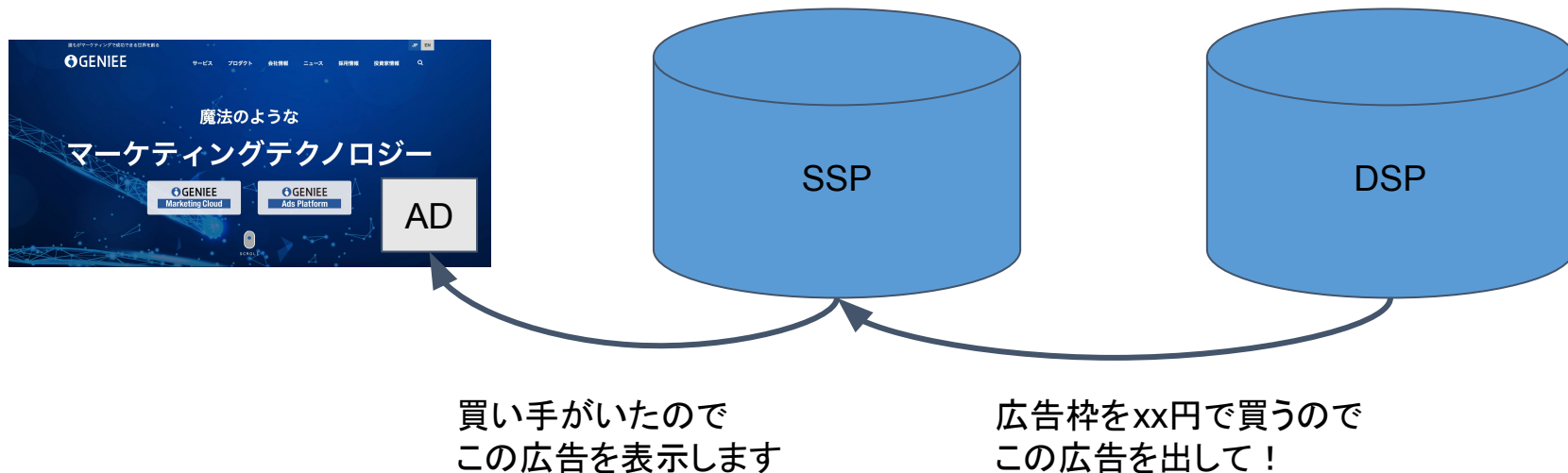
### 3. SSPがDSPに広告枠を売りに出す



## 4. DSPが数ある広告候補から適切なものと価格を決定



5. DSPはSSPに広告と入札価格を返却しサイトに広告が表示される  
これを100ms ~ 300ms以内で行う



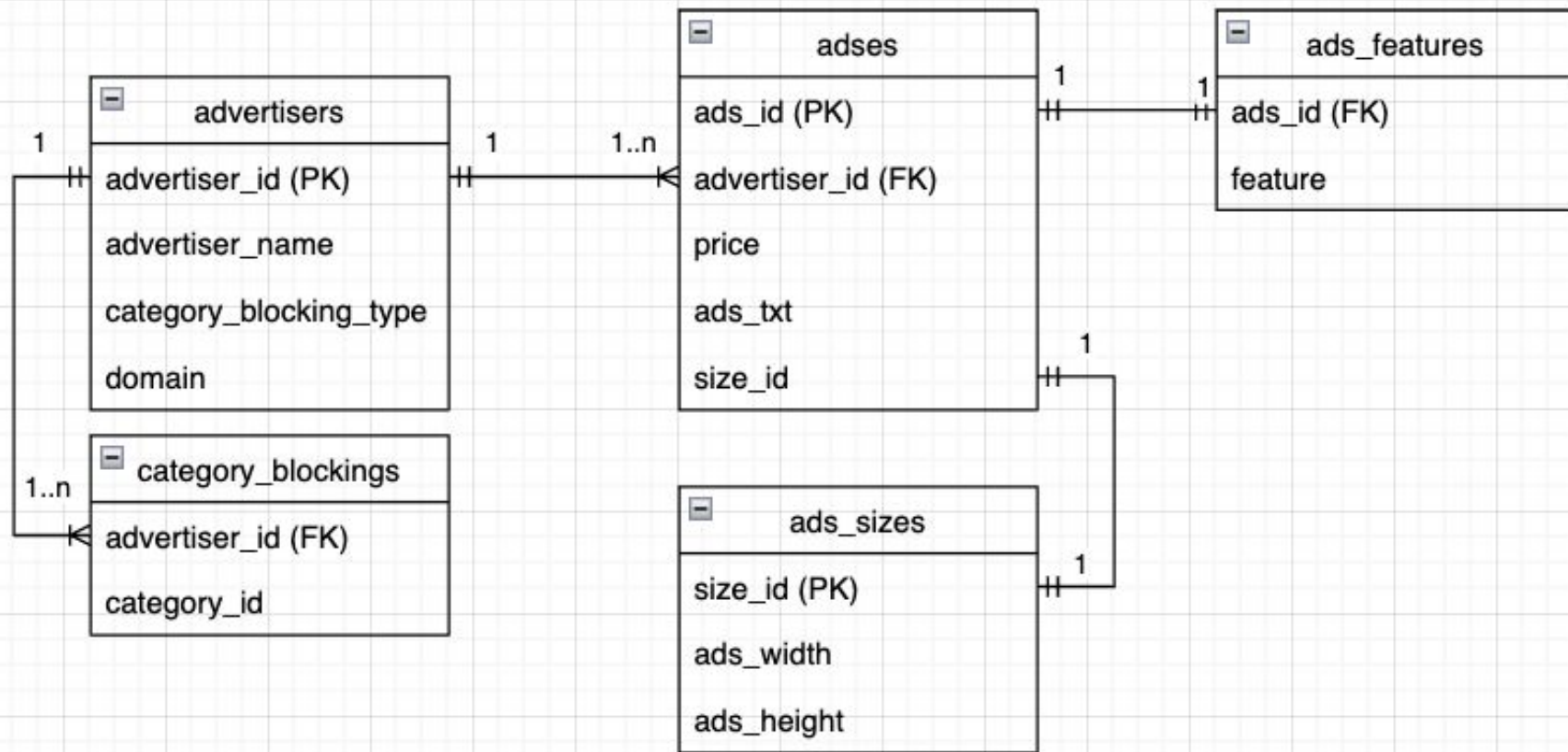


# 題材発表

みなさんには...

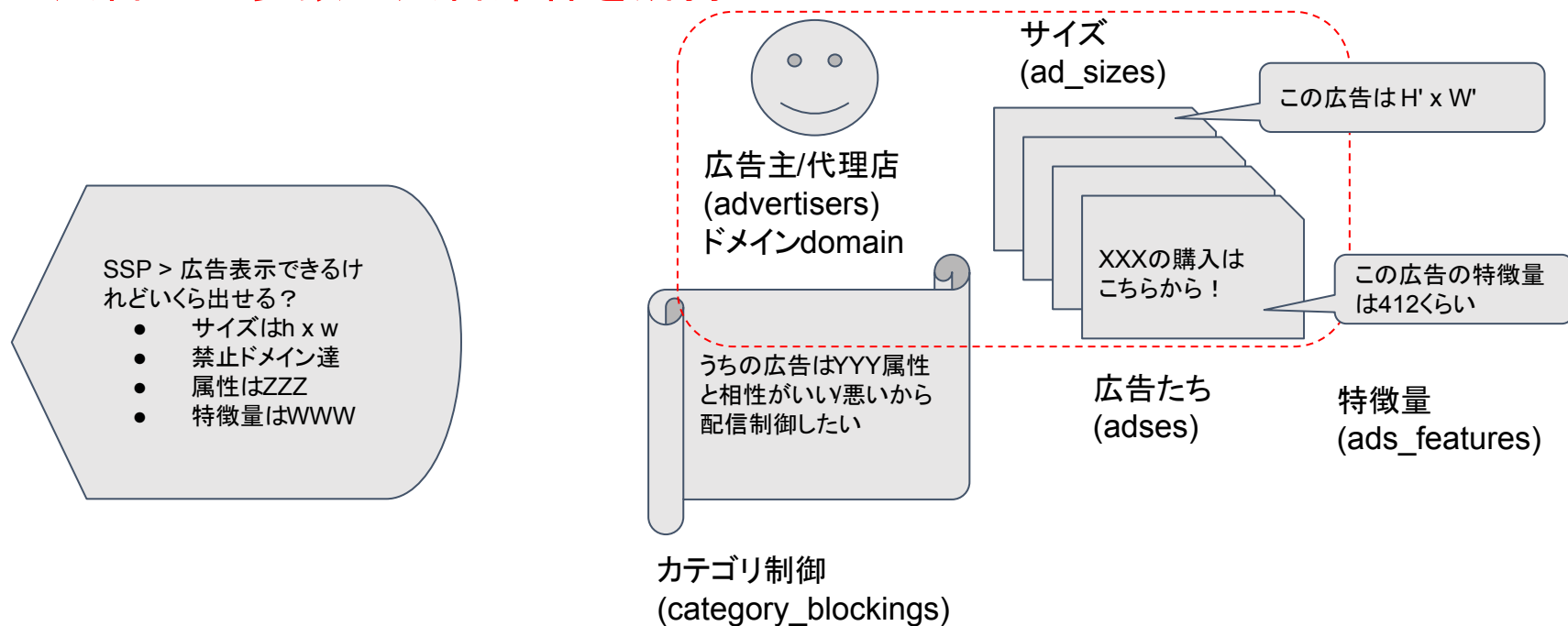
**簡易版DSPを高速化  
してもらいます**

## データの関連性 (READMEにも画像があります)



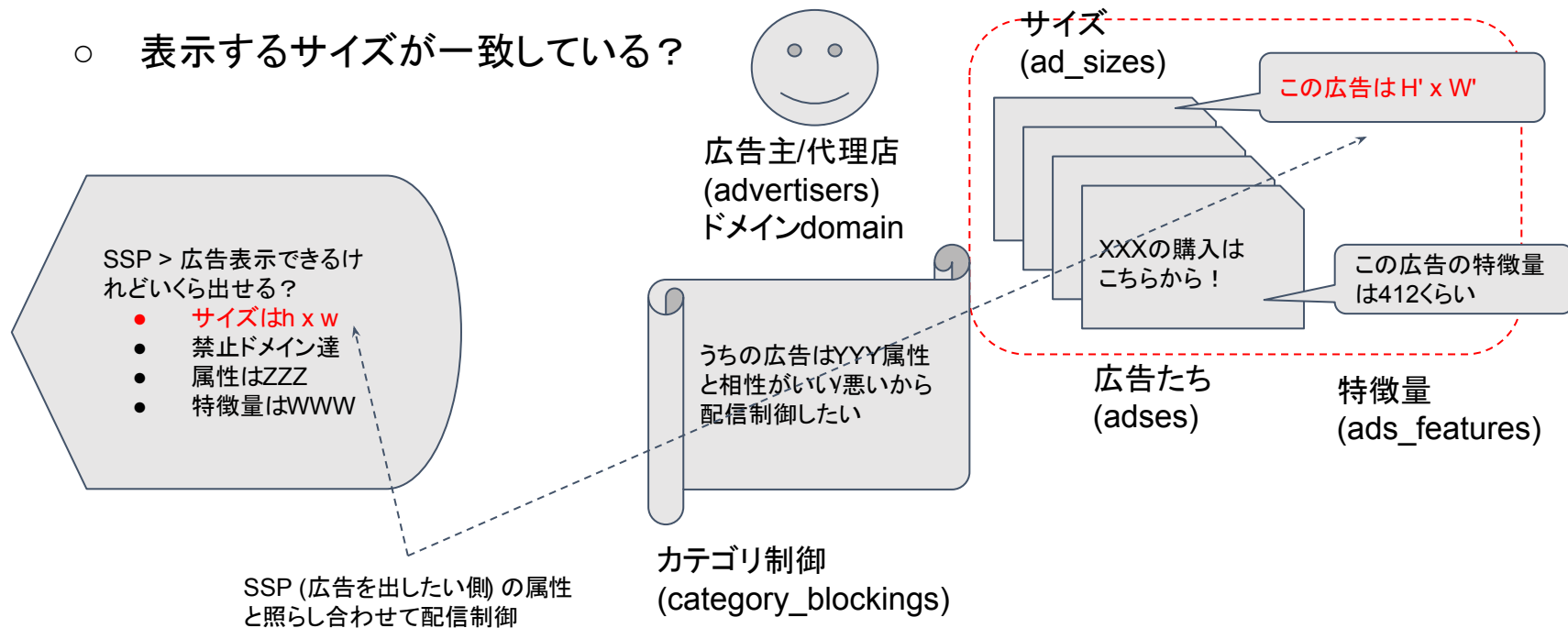
- 広告主が多数の広告案件を所持
  - 要求広告サイズに合致するサイズの広告のみ抽出
  - 広告ごとに広告主の拒否ドメインが存在
  - 広告主ごとに配信許可/拒否カテゴリが存在
    - 教育・就職・書籍・スポーツなどなど
    - 枠にもカテゴリが存在し、枠と広告案件とで配信制御が必要
  - 広告案件ごとに特徴量が存在
    - 枠にも特徴量が存在
    - 広告主ごとに最も特徴量にマッチしている1つのみが候補
  - 候補となる広告の中で価格が最も高いもののみを返す
- 詳しくは既存実装およびREADMEを参照のこと

## ● 広告主が多数の広告案件を所持



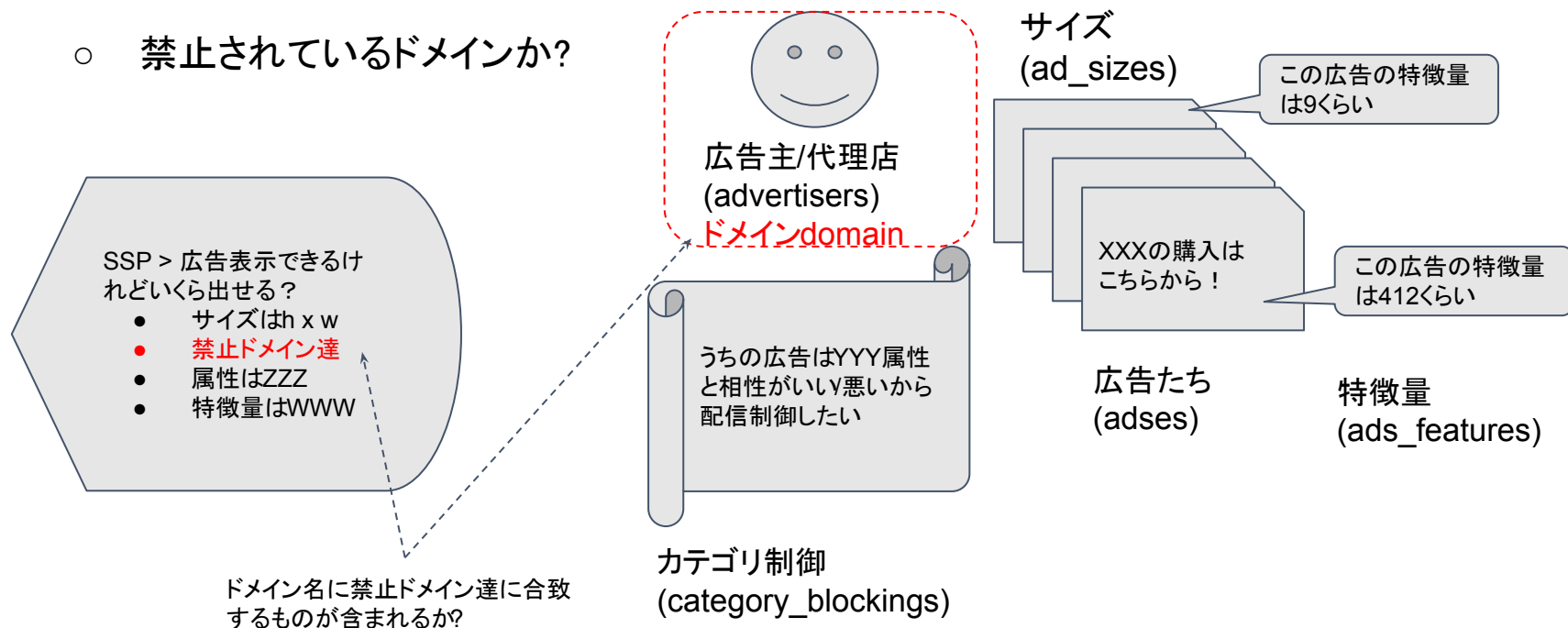
## ● サイズはそれぞれ異なる

- 表示するサイズが一致している？



## ● 広告主ごとにドメインが存在

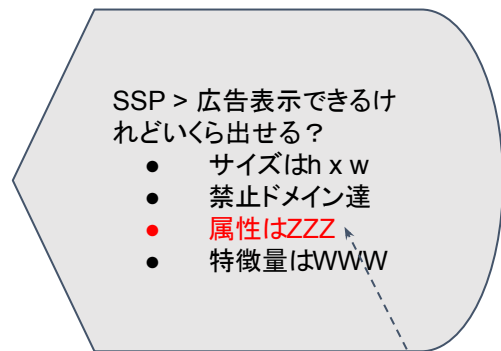
- 禁止されているドメインか?



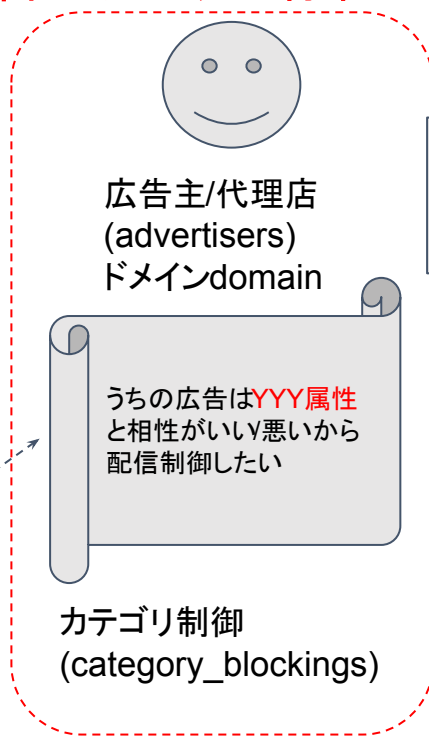


## ● 広告主ごとに配信許可/拒否カテゴリが存在

- そもそも出している広告？



SSP (広告を出したい側) の属性と照らし合わせて配信制御



DSP側

サイズ (ad\_sizes)

この広告の特徴量は9くらい

XXXの購入はこちらから！

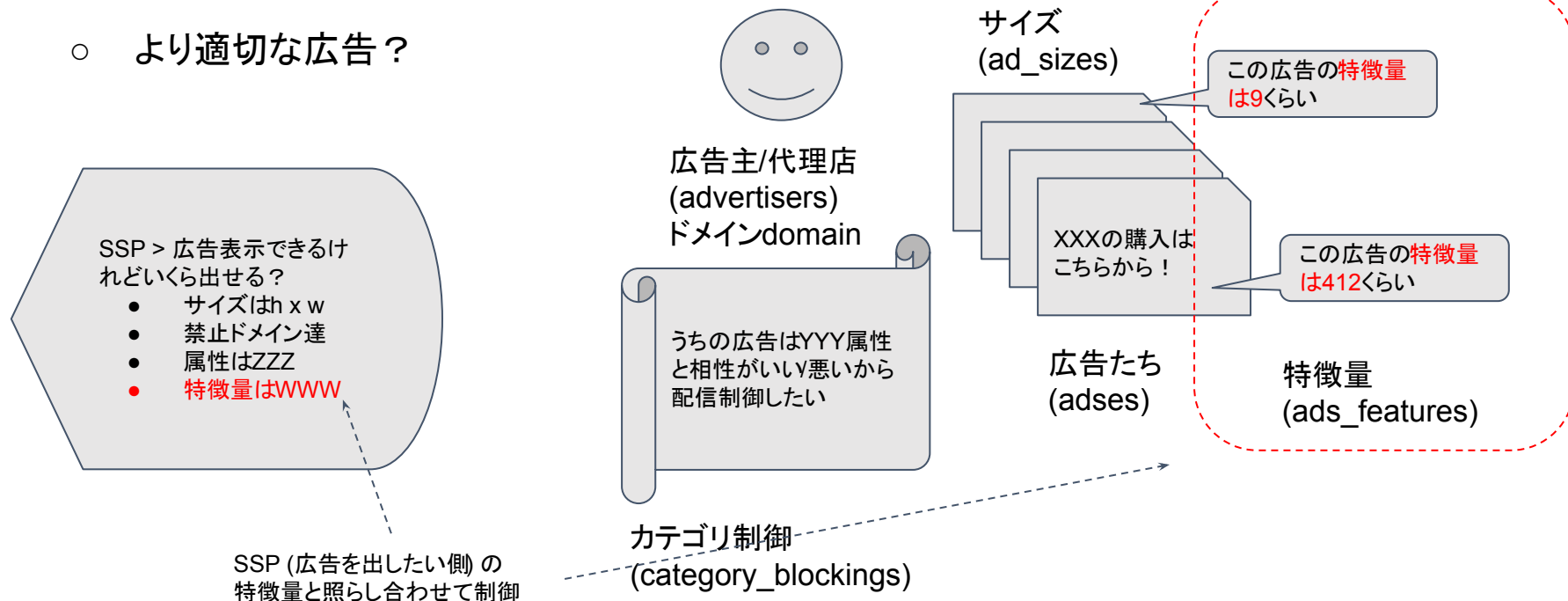
この広告の特徴量は412くらい

広告たち (adses)

特徴量 (ads\_features)

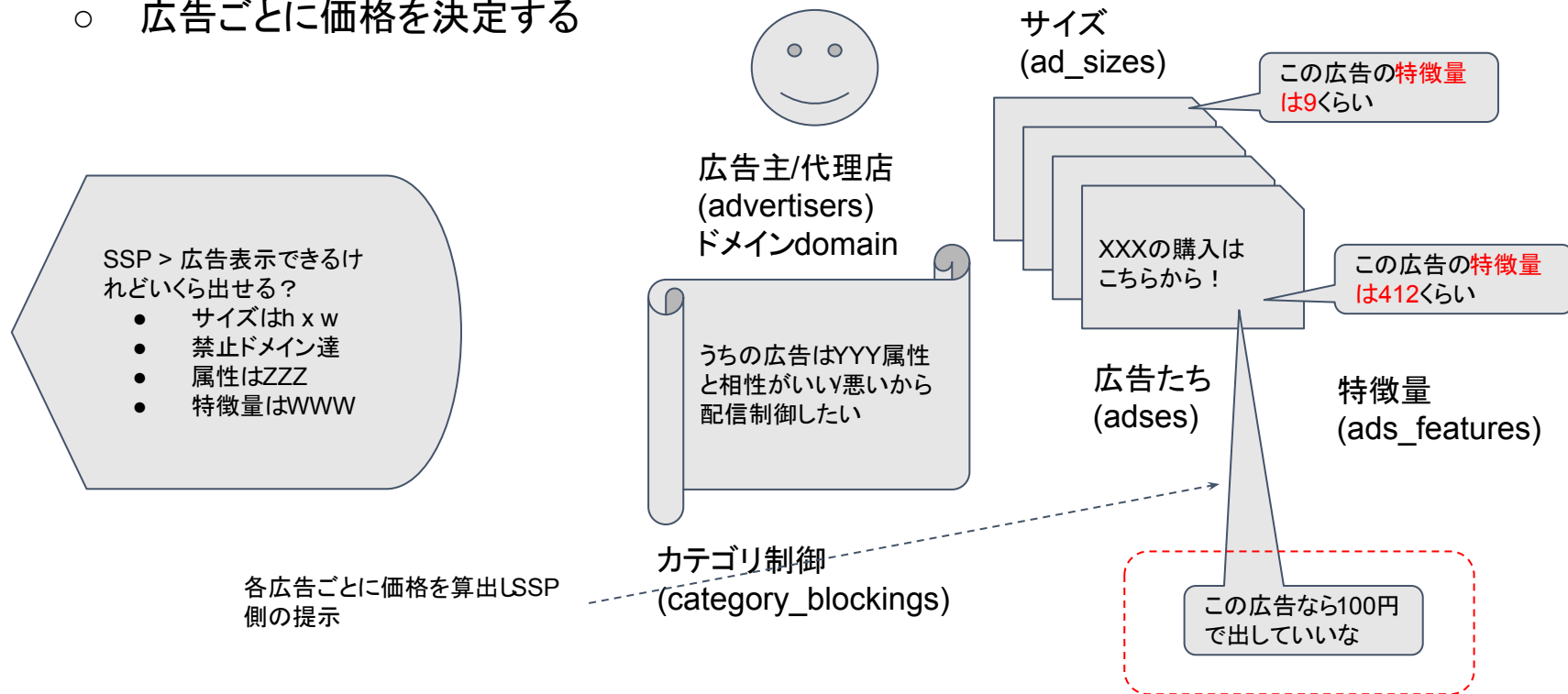
## ● 広告案件ごとに特徴量が存在

- より適切な広告？



## ● 広告の中で価格が最も高いものを返す

- 広告ごとに価格を決定する



## 具体例その1

`advertisers` は、広告主ID / 広告主名 / カテゴリ制御タイプ/ドメイン名を管理

```
mysql> select * from advertisers where advertiser_id = 1;
```

advertiser_id	advertiser_name	category_blocking_type	domain
1	tdRTF1B5MRBV8SkZ	0	K789YZWFinalCodeXYZ000CXYZ456YZ0.com

1 row in set (0.01 sec)

`adses` は、広告ID / 広告所有者の広告主ID / 価格 / 広告文字列/サイズIDを管理

```
mysql> select * from adses where size_id = 1 limit 1;
```

ads_id	advertiser_id	price	ads_txt	size_id
2	1	38.4662	6d2ELfjwwRNMNTmz1Xu19BQvyk3U32BmYa2wUDFb9E89IFEcsVy0YqkFxDvnXnAT	1

## 具体例その2

`ads\_features` は広告ID / 広告特徴量を管理

```
mysql> select * from ads_features where ads_id = 1;
+-----+-----+
| ads_id | feature |
+-----+-----+
|      1 | -94368 |
+-----+-----+
1 row in set (0.00 sec)
```

`category\_blockings` は広告主ID / カテゴリIDを複数レコードで管理

```
mysql> select * from category_blockings where advertiser_id = 1;
+-----+-----+
| advertiser_id | category_id |
+-----+-----+
|             1 |           3 |
|             1 |          19 |
+-----+-----+
2 rows in set (0.00 sec)
```

## 具体例その3

`ads\_sizes` は、サイズID / 広告の横幅 / 広告の縦幅を管理

```
mysql> select * from ads_sizes limit 2;
```

size_id	ads_width	ads_height
1	200	300
2	250	350

```
2 rows in set (0.00 sec)
```

`adses` (再掲)

```
mysql> select * from adses where size_id = 1 limit 1;
```

ads_id	advertiser_id	price	ads_txt	size_id
2	1	38.4662	<u>6d2ELfjwwRNMNTmzlXu</u> j9BQvyk3U32BmYa2wUDFb9E89IFEcsVy0YqkFxDvnXnAT	1

## 具体例その3

リクエストには

- オークション識別子 (`auction\_id`)
- 広告枠のカテゴリ情報 (`category\_ids`)
- 枠の特徴量 (`zone\_feature`)
- 広告の横幅 (`zone\_width`)
- 広告の縦幅 (`zone\_height`)
- 禁止ドメインリスト (`block\_domains`)

の情報が送られてくる

これらの情報で広告を選択していく

```
{
  "auction_id": "xxxxxxxxxxxx",
  "category_ids": [
    1,
    3,
    5,
    8,
    14
  ],
  "zone_feature": 31415,
  "zone_width": 200,
  "zone_height": 300,
  "block_domains": [
    "example",
    "test"
  ]
}
```

広告サイズの制御（サイズの範囲: 横幅、縦幅ともに1 ~ 999）

例えば要求広告サイズが(横幅, 縦幅) = `(100, 200)` の場合、

広告データのうち、

(横幅, 縦幅) = `(100, 200)` の広告のみがオークション対象候補に選ばれる

横幅が異なる、もしくは縦幅が異なる広告は選ばれない



### 禁止ドメインによるブロック

- 広告主ドメインは32文字の英大文字小文字数字+.comからなる文字列
- 禁止ドメインは3~24文字長で英大文字小文字数字から構成される

例えば禁止ドメインが (prohibit, test,hoge) の場合、

広告主ドメインで少なくとも一つが含まれていたら選ばれない。

広告主ドメイン例)

✗ hoge fuga.com , googletest.com , dprohibitptestg.com

○ googletes.com, fhoguga.com, geniee.com

カテゴリ配信制御 (IDの範囲: 1 ~ 20)

例えば広告主がカテゴリID = `{3, 19}` をブロックしたいとする

その時リクエストのカテゴリID = `{1, 3, 5, 8, 14}` だとすると、

`3` がブロックしたいIDに含まれている

→ この広告主の広告は配信されない

特徴量ターゲティング（特徴量の範囲:  $-100000 \sim 100000$ ）

特定の広告主が所有している広告の特徴量が

`(-94368, 12949, 4043, 20375, 42454)` であるとする

リクエストの特徴量が `31415` だとすると、差分が

`(125783, 18466, 27372, 11040, **11039**)` となるので

最右の広告が選択される

# 環境整備

ID : geniee

PASS : qwer2025

## 1. GitHubを確認

---

- デスクトップに以下のgitをクローンしたものが置いてあります
  - web上で見たい方は中のgit-web.weblocを実行すると良いです

URL: <https://github.com/kiyoshi0205/geniee-backend-intern.git>

以降の手順はスライドにもGitHub上のREADMEにも記載されています

## 2. 環境構築

- ターミナルを開く or vscodeを開いて以下を実行

```
~/geniee-backend-intern/setup/setup-server.sh
```

- 適度にtabキーで補完しながら実行すると良いです

```
Last login: Fri Aug 16 09:38:31 on ttys001
```

```
The default interactive shell is now zsh.
```

```
To update your account to use zsh, please run `chsh -s /bin/zsh`.
```

```
For more details, please visit https://support.apple.com/kb/HT208050.
```

```
[J1011:~ kiyoshi-fujiwara$ ./geniee-speedup-2024/setup/setup-server.sh
```

- エディタを開いて開発環境に移動

```
code ~/geniee-backend-intern
```

### 3.テストを実行してみよう

---

## コンパイル & 検証コマンド実行

### コンパイル

---

プログラムを編集したあと、(コンパイル言語を選択した方は)実行形式にするためにコンパイルする必要があります。コマンドは以下です。

```
user@mac$ make build
```

実行ファイルとして `auction-worker` が生成されます。

---

### 実行

---

必要に応じてコンパイルをしたのち、以下のコマンドを叩くと各言語に応じたサーバが起動します。デバッグや動作確認にお使いください。( `make run` 時に現在起動しているプロセスを停止するため、複数起動できないことに注意してください)

```
user@mac$ make run
```



## 初期テスト結果

---

みなさんのPCで試してみた結果

C++だと19.5sec, pythonだと10sec、golangだと3secくらい

```
-----small-----
init DB data... done.
run auction-worker...
wait 5 second for setup auction worker...
[#####] 10/10 (0.51 req/sec)
response check PASSED
elapsed time: 19.4622 sec. performance check Time Limit Exceeded...
FAILED...
make: *** [Makefile:60: inner-check] Error 1
make: Leaving directory '/tmp/intern'
make: *** [check] Error 2
```

## スピードテストで行っている内容

---

1. DBの初期化
2. すでにコンパイル/実行準備されている `auction-worker` の実行
3. 5秒間待つ
  - この間にauction-workerの下準備ができます
4. パフォーマンス測定
  - 10並列でリクエストを投げます
5. auction-workerの終了

毎回 `auction-worker` を起動しなおしていることに注意

### 規模の異なるDB/リクエストを飛ばし速度を競います

規模	広告主数	広告案件数 per 広告主	サイズ数	カテゴリID数	リクエスト数	検証閾値
small	20~30	20~30	4	1~10	10	2sec
medium	300~450	300~450	4	1~10	100	5sec
large	600~900	600~900	4	1~10	500	5sec
challenge	600~900	600~900	4	1~10	5000	10sec

リクエスト数分送られるデータを検証閾値秒以内に処理してください

ちなみに...

---

GenieeのDSPでは一日20億くらいリクエストが飛んできています

PCのスペックや並列数にもよるが 0.50req/sec では捌ききれない

Challengeより規模の大きいデータセットを最低でも 20req/sec くらいで捌きたい

(本番ではもっと複雑なことをしているので数値は下がりますが...)

## Gitの設定をしよう(任意)

---

開発過程でGitブランチを切りたいこともあると思います。仮想環境内で

```

```
git config user.name '名前をアルファベットで'
```

```
git config user.email '名前の後に@example.com'
```

```

の設定をしましょう(pushしないので適当でもOK)。下は例

```

```
git config user.name 'ryota-komiyama'
```

```
git config user.email 'ryota-komiyama@example.com'
```

```

初期実装では3種類の言語で実装されています

- C++ (C++20; GCC 12.3.0)
- Python (3.12.5)
- Golang (1.22.2)

全ての言語においてChallengeをクリアできることは確認済みです

ただし、難易度が同じとは限りません。

(易) Golang < C++ < Python (難)

の順で難しくなります。ぜひ得意な言語で挑戦してください！

## まずは言語選択をしよう

---

好きなエディタでMakefileを編集し、6 ~ 8行目を使用したい言語に変更してください。

例えばpythonを使用したい場合は、6行目をコメントアウトして7行目の`#`を削除してください。

```
3  SEED = 123
4
5
6  LANGUAGE = cpp
7  # LANGUAGE = python
8  # LANGUAGE = go lang
9
```

SQLはどのくらいわかりますか？

1. 存在を知らない
2. 存在は知っていて、SELECTなど簡単なクエリなら読めるが書けない
3. SELECTなど簡単なクエリの読み書きはできる
4. DML全般把握しており、複雑なクエリも書ける
5. DML/DDL把握しており、正規化を意識したテーブル設計もできる

ちなみにみなさんに提供しているのはMySQL8.0です



# 実装スタート

# 皆さんと勝負しましょう！

- `make submit` を実行すると別seedによる結果を順位表に反映
- 氏名はPC名なので安心してください
  - test/submit\_user.txtを弄ると名前は変更可能です(変えても良いけど常識的な範囲で…)

順位表

#	氏名	Small	Medium	Large	Challenge
1	ryota-komiyama	116ms	159ms	334ms	2334ms
2	J0050	112ms	177ms	374ms	2680ms

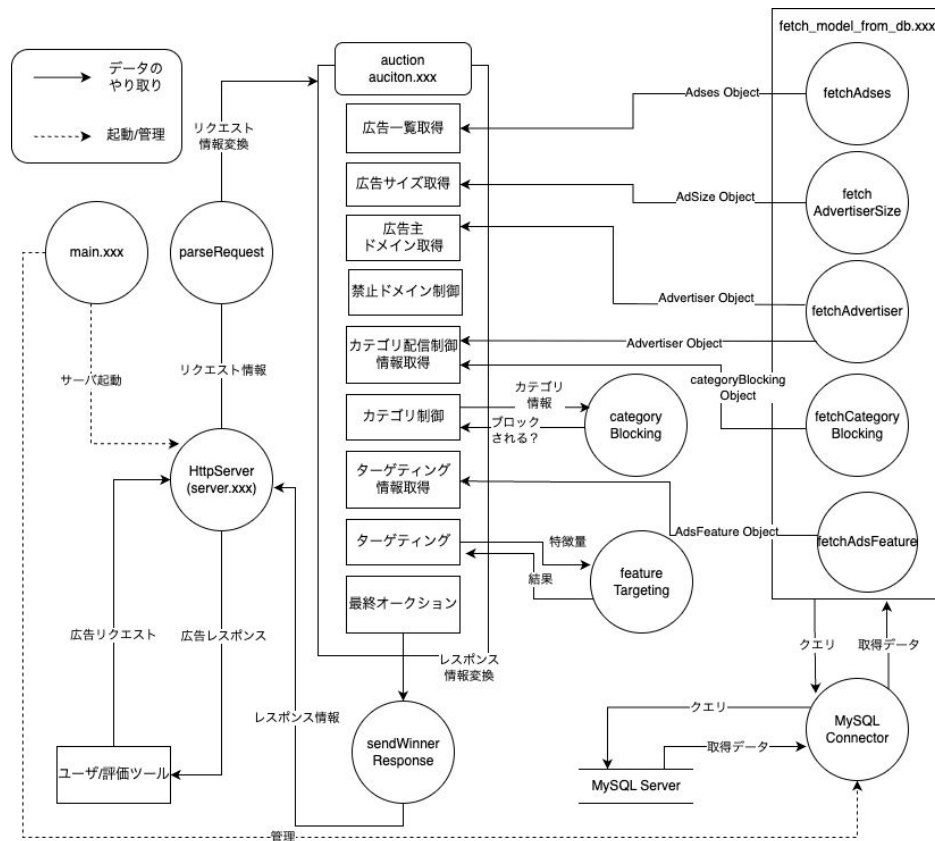
提出履歴

Name	Dataset	Language	Status	Time
J0050	Challenge	C++	AC	2680ms
J0050	Large	C++	AC	374ms
J0050	Medium	C++	AC	177ms
J0050	Small	C++	AC	112ms

- まずはコードを理解しよう
  - auctionやfetch\_model\_from\_dbあたりから理解しましょう
  - READMEに仕様詳細とソースコードの説明がありますが仕様理解はmedium突破には必須情報ではありません！
- `src/` 配下のコードをいじってみよう
  - 高速化を試し `make build` → `make check` の繰り返し
  - ある程度完成したら `make submit` で提出
- 以下の場所は編集してはいけません
  - `test/` 、 `data/` 配下

## サンプルコードの呼び出し階層 (READMEにも画像があります)

1. main関数がserverを起動
2. リクエストが来たらserverが  
auctionを呼び出す
3. MySQLConnectorを通じて  
広告一覧を取得
4. データを取得しサイズ制御
5. データを取得しドメイン制御
6. データを取得しカテゴリ制御
7. データを取得しターゲティング
8. 最終オークションで広告選択
9. 結果を呼び出し側に返却



## FAQ

### 検証テストのレスポンスチェックが失敗した

検証バッチはレスポンスを `./test/result.json` に吐き出したのち、`auction_id` でソートします。  
そのため例えばsmallデータセットを用いた場合、

```
user@mac$ diff ~/geniee-backend-intern/data/response_123_small.json ~/geniee-backend-intern/test/result.json
```

のように実行することで、どのデータがずれていたか確認することができます。

### コンテナが固まった

コンテナをリスタートします。

`./setup/restart-server.sh` を実行してください。

```
user@mac$ ~/geniee-backend-intern/setup/restart-server.sh
```

各種インストールしたライブラリや設定は基本的には保存されたままです。

## 検証テストのレスポンスチェックが失敗した

---

検証バッチはレスポンスを `./test/result.json` に吐き出したのち、`auction_id` でソートします。  
そのため例えばsmallデータセットを用いた場合、

```
user@mac$ diff ~/geniee-speedup-2024/data/response_123_small.json ~/geniee-speedup-2024/test/result.json
```

のように実行することで、どのデータがずれていたか確認することができます。

## 仮想環境が固まった

---

仮想環境をリスタートします。

`./setup/restart-server.sh` を実行してください。

```
user@mac$ ~/geniee-speedup-2024/setup/restart-server.sh
```

上記コマンドを実行すると再度仮想環境に入った状態でvscodeの画面が起動します。

各種インストールしたライブラリや設定は基本的には保存されたままです。

- 単体実行したい

- サーバの立ち上げ: ``doc/command.md#実行``
- リクエストを投げる: ``doc/command.md#単体の検証``

- プログラムFailedしたので調査したい

- 正解との比較方法: ``doc/faq.md#検証テストのレスポンスチェックが失敗した``
- ``make check`` 中の出力が見たい: ``doc/command.md#検証``

- 詳細な仕様が知りたい

- featureTargeting: ``doc/feature-targeting.md``
- categoryBlocking: ``doc/category-blocking.md``

## 生成AIの使用は許可されています

---

ChatGPT / Copilot / etc… お好きなものをお使いください

(Writerも使って確認しております)

コードを生成してもらってもよし、アドバイスをもらってもよし

業務でもうまく活用して効率的に働くことが求められるので是非

(実は使われること前提でちょっと難しくしています)